

令和6年度 社会福祉法人 協愛福社会 施設自己評価表

(保育理念)
Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)
げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている B：わりとできている
C：一部改善が必要 D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育 目標 に	(1)保育士一人一人が、協愛福社会の保育理念、保育目標を理解している		B	協愛福社会の理念や方針をしっかりと頭に入れて支援している職員はまだ少ないように思うが、全く分かっていないわけでもない。今後、理解を深める時間が必要。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている		A	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している		B	
保育 について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている		B	職員も経験年数の長い職員が増え始め、子どもたちへの対応や計画などは問題なく対応できていた。個人指導は何度か行っていった。他の施設職員同士が協力しあえるようになることも子ども達や保護者と連携が取れやすくなる。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている			
	(3)素材・用具を適切に使用している		A	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している		B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている		B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい		B	
食育 について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている		B	アレルギー対応に関しては、今まで通り保護者とも連携を取りながら間違いのないように進めていく。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている			
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている		A	
役割 分担 研修 構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている		B	今年より職員の役割分担を明確にし、行ってもらった。責任を持ってもらうことで、職員の連携にも繋がりがつつある。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている		C	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している		B	

		前年評価	今年評価	
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている		B	きつずノートは定着しているが、載せ方への工夫や進展がみられないので、今後の課題となる。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている		A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている		A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している		B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している		A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している		A	
開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ		A	連携は特に人数の多い広瀬児童クラブと小学校の先生との連携がしっかり取れており、クラス編成にも役立っていると感謝されている。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している		B	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている		B	今年度新聞作りと発表を行ったが、地域への発信とまではいかなかった。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている		A	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している		C	

総合的な現状と課題

前年度、職員入れ替わりがあまりなく、令和6年度を迎えられたため、職員の連携は取れやすかったように思うが、年度末に退職が重なり、新年準備や職員の体制に支障が出てしまった。職員同士で声を掛け合い何とか、持ち直そうとしている所でもある。令和6年度は、後半からZOOMを使ってのクラブ交流や職員会議も行い、職員同士の話し合いや交流を深められるようにした。7年度からは、さらに回数を増やし、特にリーダー同士の話し合いを行うことで、風通しの良い児童クラブ作りをしていきたいと思う。

園名 協愛福祉会 児童クラブ 氏名 長友 里子